

# 小容量高濃度2.0K<sup>\*</sup>タイプ(200kcal/100mL)の 経口流動食使用報告 1

※1mLあたりのkcal

様々な理由で普通の食事が十分に摂れない方の補助栄養として、少量で効率よくエネルギーが補給できる小容量高濃度2.0K<sup>\*</sup>タイプ(200kcal/100mL)の経口流動食(以下、2.0K 経口流動食)の有用性が注目されています。

このたび、2.0K 経口流動食を採用された滋賀医科大学医学部附属病院の栄養治療部に所属する西田管理栄養士と浦野管理栄養士に使用経験を伺いました。



↑ 栄養治療部スタッフの皆さん(前列左から3番目 浦野あゆみさん、後列左端 西田 香さん)

## 滋賀医科大学医学部附属病院の紹介

当院の栄養管理の1番の特徴はNSTが活発に活動していることです。発足は2003年と京滋地区で最も早くから活動しており、これまでに9000人以上の患者様の栄養サポートに関わってきた実績があります。NSTのスタッフは50名ほどで、多くの職種が関わる全科型であり、ICUも含めほぼ全ての入院患者様の栄養評価を行っています。栄養治療部は、NST活動のほかにも大学病院として臨床研究にも積極的に関わっているほか、スタッフが病棟に出向いて行うベッドサイドの栄養管理も重点的に行っています。

## 2.0K 経口流動食の必要性

### ● 飲みきれない患者様が多い

手術後の患者様、あるいは高齢患者様は全般的に摂食量が低下しているので経口流動食を活用します。いつも1.6K<sup>\*</sup>(200kcal/125mL)タイプの経口流動食(以下、1.6K 経口流動食)を使用していましたが、全量飲みきれないケースも少なくありません。

### ● より高濃度の製品を採用

今回、1.6K 経口流動食よりもさらに高濃度の2.0K 経口流動食が発売されたので試飲を行いました。経口流動食は甘いものが多く、その点が苦手な患者様もいらっしゃいます。2.0K 経口流動食は従来品より高濃度ながら、甘さが抑えられ、すっきり飲みやすいと評価しています。効率よく栄養が摂れる点も踏まえて、2.0K 経口流動食の使用を開始しました。

## どのように使っている?

### ① 術後栄養管理パスに組み入れて

当院では、消化器がんなどの術後の栄養管理パスに2.0K 経口流動食による補助栄養を組み入れています。例えば、臍

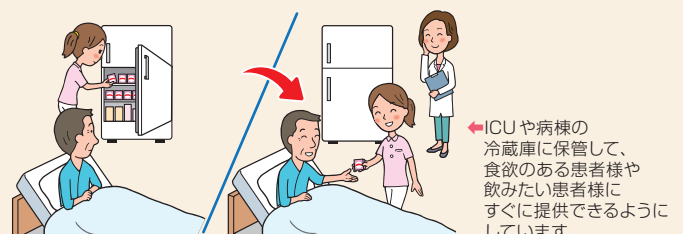
## 術後栄養管理パス例 臍頭十二指腸切除術

日数	栄養管理方法
手術日	末梢輸液
術後1日目	↓
術後2日目	↓
術後3日目	朝 2.0K 経口流動食 1本
術後4日目	朝 2.0K 経口流動食 1本 昼～ 三分粥ハーフ食(他 栄養補助食品など)
術後5日目	↓
術後6日目	五分粥ハーフ食(2.0K 経口流動食 1本+α)
術後7日目	七分粥ハーフ食(2.0K 経口流動食 1本+α)
術後8日目	軟飯ハーフ食(2.0K 経口流動食 1本+α)

臍頭十二指腸切除術の場合、術後3日目の朝から2.0K 経口流動食を1本、4日目昼食から三分粥ハーフ食～五分粥、七分粥ハーフ食と食形態を1日ごとに上げていきますが、2.0K 経口流動食は常に併用できるようにしています。

### ② 飲みたいときに飲めるように

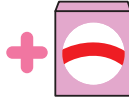
ICUや消化器病棟では、看護師協力のもと病棟の冷蔵庫に2.0K 経口流動食を常備しています。ですので、食事の時間に限らず患者様の食欲が出たときに看護師が「試しに飲んでみえますか?」とお勧めすることもあります。摂取状況はその都度栄養治療部スタッフに報告してもらっています。



← ICUや病棟の冷蔵庫に保管して、食欲のある患者様や飲みたい患者様にすぐに提供できるようにしています。



### 【献立例】



食事のエネルギーは通常の8割ほどに落として2.0K 経口流動食を1本つけます。



↑ 当院では毎日異なるメニューを3種類ご用意しています。

### ③全病棟で使用

消化器外科に限らず心臓血管外科などでも、術後は食事があまり食べられない方が多く、看護師からもよく2.0K 経口流動食の要望があります。また、内科系疾患やがん化学療法などの治療中においては、若い患者様でも食事に追加するケースが多いです。歯科口腔外科では、顎関節を固定する際などは、経口流動食だけの栄養管理を行っており、比較的若い10代の方々にもおいしく飲んでいただいています。

### 飲んでいただくためのポイント

- 手術後などは食欲のない患者様も多く、焦らずにゆっくり時間をかけて飲むように指導しています。また経口流動食の量が少ない方が、患者様の負担も少なくなる印象があります。
- 食事との併用の場合、2.0K 経口流動食を飲みきれない場合は食事の間を利用した分割飲用もお勧めしています。その方が喫食率も高くなり、むかつきなども防げると考えています。
- 例えば2.0K 経口流動食を初めて飲む患者様には、「牛乳の半分量だけど、エネルギーは牛乳よりも多いよ」などと説明し、飲みたい気分に導く声かけも大切です。

### 手術後の食事スケジュール

#### 術後食事開始：経口栄養剤(2.0K 経口流動食)

流動食でも流し込まず、口に少しずつ含め、ゆっくり時間をかけて1パックを3~4回に分けて、無理せず飲みましょう。



#### 三分粥・五分粥・七分粥

食べる優先順位は

**おかず(主菜)** > **お粥(主食)** >>> **野菜等**

付加食品(2.0K 経口流動食など)がついてくる場合は、低栄養やダンピング症候群の予防のためにも、時間(10時頃、15時頃)を分割して摂りましょう。



#### (全粥)・軟飯

原則食べてはいけない食品はありませんが、しばらくは消化管を安静にするために、消化のよい食品を選びましょう。

↑ 患者様用術後食事スケジュールの説明書イメージ

- 栄養士だけでなく、患者様の最も身近な存在である医師や看護師からも2.0K 経口流動食の必要性を説明したり、飲んでいただくための積極的な声かけを行っています。各部署のスタッフに栄養管理の大切さがしっかりと理解されていることも重要です。

### 2.0K 経口流動食の使用を開始して

- 見た目も小さいので食欲のない方でも飲みきってもらえる方が増えました。
- 味もおいしいと好評です。中でもコーヒー味を希望されることが多く、甘い味を敬遠される男性の方にも飲んでいただいています。
- ゆっくり、少しずつ飲むように指導しているので、下痢、嘔吐、腹部膨満感などの消化器症状もあまりみられません。
- 1日に提供する数は患者様によりますが、口腔外科では、1日5本ぐらい飲んでいただく方もいます。

### まとめ

- 2.0K 経口流動食を術後栄養管理パスに組み入れて、エネルギーアップが必要な多くの患者様に飲んでいただいている。
- 2.0K 経口流動食は少量で効率よく栄養補給ができ、見た目も小さく、味もすっきりとしているので食欲のない患者様に受け入れやすい点が評価できる。
- 看護師の協力の下、ICUや病棟の冷蔵庫に2.0K 経口流動食を保管して、食欲のある患者様や飲みたい患者様にすぐに提供できるようにしている。
- 手術後をはじめ、あらゆる診療科の栄養管理のシーンにおいて、2.0K 経口流動食は活用できている。